

技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	☒ 安全・防災 ☐ 維持管理 ☐ 環境 ☐ コスト ☐ ICT ☐ 品質 (該当分類に○を付記)		
技術名称	ESCON受圧板	担当部署	九州支店
NETIS登録番号	QS-170016-A	担当者	西本 尊
社名等	(株)エスイー	電話番号	092-473-0191
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 高齢化、少子化社会と、新しい機能・基準による高能率で生産性の高い新材料、新工法、新しい設計基準のコンセプトの質を創出するため、超高強度合成繊維補強コンクリート(ESCON)を開発した。 2. 技術の内容 「ESCON受圧板」は、斜面安定・地すべり抑止に用いられるグラウンドアンカー工法用プレキャストコンクリート反力体である。構造は、超高強度合成繊維補強コンクリートと鉄筋を組み合わせたRC構造であり、硬化体組織が緻密であるため高耐久性能を有しており、厳しい腐食環境下でも使用が可能である。また、超高強度合成繊維補強コンクリートを使用しているため、従来のコンクリート製受圧板よりも軽量・薄型となっている。ラインナップは受圧面積がやや小さく比較的硬質な地盤に対応するクロスタイプと受圧面積が大きく軟質地盤に対応するセミスクエアタイプの2種類がある。 3. 技術の効果 ・工場製品であるが、RC構造で蒸気養生の為、納期が短縮できる。 ・軽量であるため、逆巻き施工が容易で、工期の短縮および安全性の向上が期待できる。 ・反力体高さが低いため、全面緑化に近い緑化が可能となる。 ・緻密組織のため劣化因子の侵入がなく、高耐久性である。 ・受圧面積が異なる2つのタイプ(クロスタイプとセミスクエアタイプ)があり、幅広い設置地盤に対応できる。 4. 技術の適用範囲 ・標準形では、設計荷重Td=800kN以下、受圧板大きさ1.9m,2.35m,2.85m、受圧面積a=1.77m²～5.22m²となる。 ・全てのグラウンドアンカー工法との組み合わせが可能である。 特に効果の高い適用範囲 ・逆巻き工法。 ・法面勾配1:1.0より緩勾配で全面緑化を行う場合。 ・塩害地域。 5. 活用実績 国の機関 4件（九州 1件 、九州以外 3件 ） 自治体 9件（九州 2件 、九州以外 7件 ）		

6. 写真・図・表



● 薄 型 ・ 軽 量

超高強度の**メリット**を活かし“重
い・厚い”の課題を解決！

従来のPC製受圧板と比較して約40%
の軽量化が可能のため、施工の省力化が
実現できます。

従来工法との比較

(2.5mピッチセミスクアタイプ450kNタイプ)

	従来工法		ESCON 受圧板
	RC製 (現場打ち)	PC製	
厚さ	400mm	350mm	180mm
重量	約5.4t	約2.4t	約1.46t

● 高 耐 久

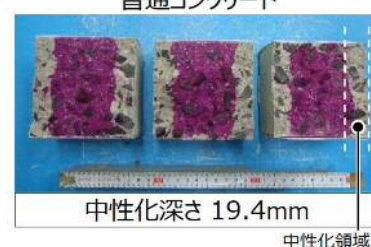
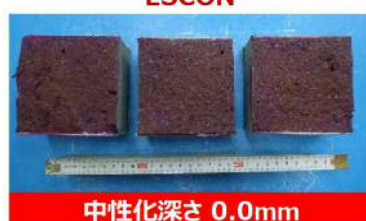
高耐久性の**メリット**を活かし
法面の長寿命化を実現！

水、酸素、塩化物イオン等の劣化因
子の侵入がほとんどなく耐久性に優
れます。

促進中性化試験（52週）においても**中性化なし！**

ESCON

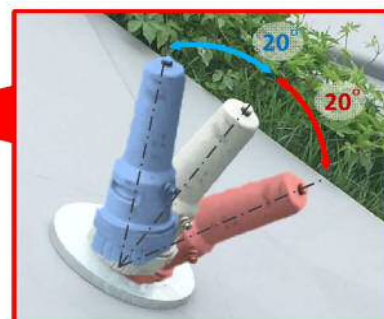
普通コンクリート



● 高い適用性

大きな調整角度が**メリット**！
設計・施工の自由度が向上！

ESCON受圧板と組み合わせるグ
ラウンドアンカー工法に制約はなく
全工法を自由に選択できます。



上下左右に**最大20°**の角度調整が可能！（角度調整台座使用時）